

回復期リハビリテーション(病棟)から在宅に向けて

いろいろなスタッフが二つの目標に向かって協力し合う。お年寄りや子どもたち、社会的弱者も暮らしやすい地域づくりの二翼を担う。

回復期リハビリテーションとは

— 南国中央病院では、現在の一般病棟(45床)に加え、6年前に「回復期リハビリテーション病棟(54床)」を開設されたとお聞きしました。回復期リハビリテーションとは、どのような病棟でしょうか。

宮本/急性期の治療を終えた患者さんを対象として、医師や看護師、介護士、リハビリ、栄養士などの多くのスタッフが協力し合い、患者さんの機能回復を手助けさせていただく病棟です。そして、できるだけ早い在宅復帰を目指しています。



南国中央病院 副院長 宮本 寛
日本リハビリテーション医学会専門医

一回復期リハビリテーションでは、実際にどのような取り組みを行っていますか。

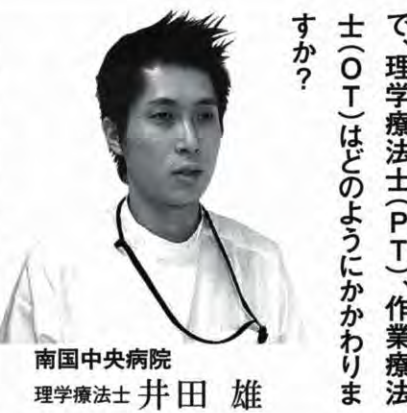
宮本/どんな病気や疾患であってもリハビリは必要です。毎日の生活そのものが、リハビリになります。脳卒中でも骨折でも、救急病院に運ばれたら、今までの日暮らしのリハビリを開始することも多くなっています。しかし、急性期のほぼ2週間程度は、病気の治療が優先されますので、リハビリという点では十分ではありません。したがって2週間から4週間が過ぎたところから、多くのスタッフが集中的にリハビリを行う必要があり、集中的にリハビリを行う必要があります。目から入る情報を通して分かりやすく伝えられ、ご好評をいただいています。



回復期リハビリテーションのスタッフと

— 回復期のリハビリテーションで、理学療法士(P.T.)、作業療法士(O.T.)はどのようにかわりますか?

井田 P.T/我々は365日毎日、リハビリ訓練を行っています。脳卒中や骨折を起こした方に、発症、手術から2カ月以内に回復期リハビリ病棟に入院し、365日の集中的なリハビリテーションを行います。そのことにより、寝たきりを予防し、起きる、立つ、歩くなどの基本動作や日常生活動作を再び行えるようにし、早期の在宅復帰を目指します。この際、患者さんの日常動作能力の向上も重要ですが、ご家族や地域の支援も必要です。退院前には、患者さんの現状に合った運動をご家族やヘルパーと一緒に続けていただくために、写真や図などでお伝えしています。さらに、そのビデオを作成する取り組みもしています。目から入る情報を通して分かりやすく伝えられ、ご好評をいただいています。



南国中央病院 理学療法士 井田 雄

回復期リハビリテーションのスタッフと

— 回復期リハビリテーションで、理学療法士(P.T.)、作業療法士(O.T.)はどのようにかわりますか?

一圓 O.T/例えば右半身が不自由になった患者さんは、左側に寝返りを打って起き上がることはできませんが、反対側はできません。ベッドの向きについても重要になってきます。ですから、回復期リハビリ病棟で、在宅での日常生活のいろいろな場面に対応できるように手助けをするのが作業療法士の訓練です。あらかじめ住まいを訪問させてもらうことがあり、手すりや階段の段差などについて本人、家族と一緒で検討します。退院後はご自宅での暮らしやすい生活を送るために、訓練でできるようにした動作を、実際にできるかどうか確認するなどの、退院前にケアマネジャー、ヘルパーさん、デイケアの人たちと話し合せて連携できる環境づくりも行っていきます。また必要であれば、在宅の患者さんを訪問し、リハビリいたします。



南国中央病院 作業療法士 一圓 智加

現在の回復期リハビリスタッフの総数
理学療法士……32人
作業療法士……16人
言語聴覚士……7人
(平成21年7月1日現在)

— 回復期リハビリ病棟では、看護師さんが中心となるとありますが、看護師さんの役割やリハビリのスタッフとの連携はどうなっていますか。
杉本看護師長/患者さんやご家族が安心かつ満足できる医療、リハビリをご提供し、患者さん自身のやる気を最大限に発揮させることが大切です。そして、日でも早く、在宅生活へもどることが先決です。そのためにも、入院後から早い時期に、患者さん、ご家族と一緒に今後の方向性、ゴールをどこに設定するかを考えます。また、やむを得ず、ゴールや方向性が変更された場合でも、速やかに対応できるように話し合いを行う必要があります。

回復期リハビリテーション

— それ以外でも、最近では栄養面や口のケア(口腔ケア)の必要性が叫ばれているようですが、この点はどうですか。
宮本/口の働きには、話すこと、息をすること、食べることの人間として大切な3つの働きがあります。これが同時に障害を持つこともありますが、その働きを効果的に回復させることが大切です。とはいえ、息もたえだえの人が普通に話したり、自然に食べたりすることができなくなる可能性があります。それは、口の中をきれいにする口腔ケアを行っていただきます。なぜなら、口の中に住んでいる細菌がどんどん増え、口の動きが悪く、うまく食べ物が飲み込めない患者さんは肺炎の方へ入ってしまう肺からです。食べることの障害があるため、栄養状態も悪くなると体の抵抗力が下がり、十分に細菌と戦えません。場合によっては命取りになります。

— 回復期リハビリテーション病棟と在宅復帰との関係について、杉本看護師長/看護師、介護士は、栄養士をはじめとする関係職種とのスタッフと連携を取りながら、その患者さんの口腔ケアを行っています。食事形態、食べる姿勢などを検討して上手に介護することによって、自然においしく食べることを応援しています。



南国中央病院 看護師長 杉本 美紀

— これからの医療法人「地塩会」や社会福祉法人「ふるさと自然村」などの在り方として、どういう点に力を入れていきますか。
宮本/地域リハビリテーションというところが今後のテーマです。急性期病院と回復期リハビリテーション病院、在宅生活を支援する医療機関、施設がしっかりと連携して、障害が残ったとしても住みながら自宅や地域で家族、地域の人々とともに安心して暮らせるような体制を整えることが必要です。介護度が比較的に軽い方でも、一人で暮らせるようなケアハウス、有料老人ホームなどの居住施設を拡充することも必須です。閉じこもりなどで体の機能が衰えないように、通所リハビリの充実や家族の介護疲れを少なくするために短期入所機能を増やすことも考えなければなりません。そのため、地域に、地域で見守り支えあう支援態勢作りが大切です。今後は、我々の地塩会グループだけではなく、保健、医療、福祉関係者と協力、連携することはもちろん、スーパーや銀行、商店街、学校、PTA、人生経験豊富な高齢者、引退した元氣な団塊世代の人たちなど、生活に関係するあらゆる人々がそれぞれの立場でできることを一緒に考えてやっつけけるように頑張っていきたいと思っています。

回復期リハビリテーション病棟と地塩会グループの方向性

— 回復期リハビリテーション病棟は在宅復帰を目指す病棟でもあると思いますが、これからはどうですか。
宮本/実は国の政策として、2011年3月末には長期入院できる療養病床が再編され、介護病床が廃止されることが決定しています。高知県全体のベッド数が減り、いわゆる介護難民や医療難民と呼ばれる人々が出てくることも予想されています。今後は、在宅生活ができるような体制づくりが今以上に必要になってきます。

— これからの医療法人「地塩会」や社会福祉法人「ふるさと自然村」などの在り方として、どういう点に力を入れていきますか。
宮本/地域リハビリテーションというところが今後のテーマです。急性期病院と回復期リハビリテーション病院、在宅生活を支援する医療機関、施設がしっかりと連携して、障害が残ったとしても住みながら自宅や地域で家族、地域の人々とともに安心して暮らせるような体制を整えることが必要です。介護度が比較的に軽い方でも、一人で暮らせるようなケアハウス、有料老人ホームなどの居住施設を拡充することも必須です。閉じこもりなどで体の機能が衰えないように、通所リハビリの充実や家族の介護疲れを少なくするために短期入所機能を増やすことも考えなければなりません。そのため、地域に、地域で見守り支えあう支援態勢作りが大切です。今後は、我々の地塩会グループだけではなく、保健、医療、福祉関係者と協力、連携することはもちろん、スーパーや銀行、商店街、学校、PTA、人生経験豊富な高齢者、引退した元氣な団塊世代の人たちなど、生活に関係するあらゆる人々がそれぞれの立場でできることを一緒に考えてやっつけけるように頑張っていきたいと思っています。

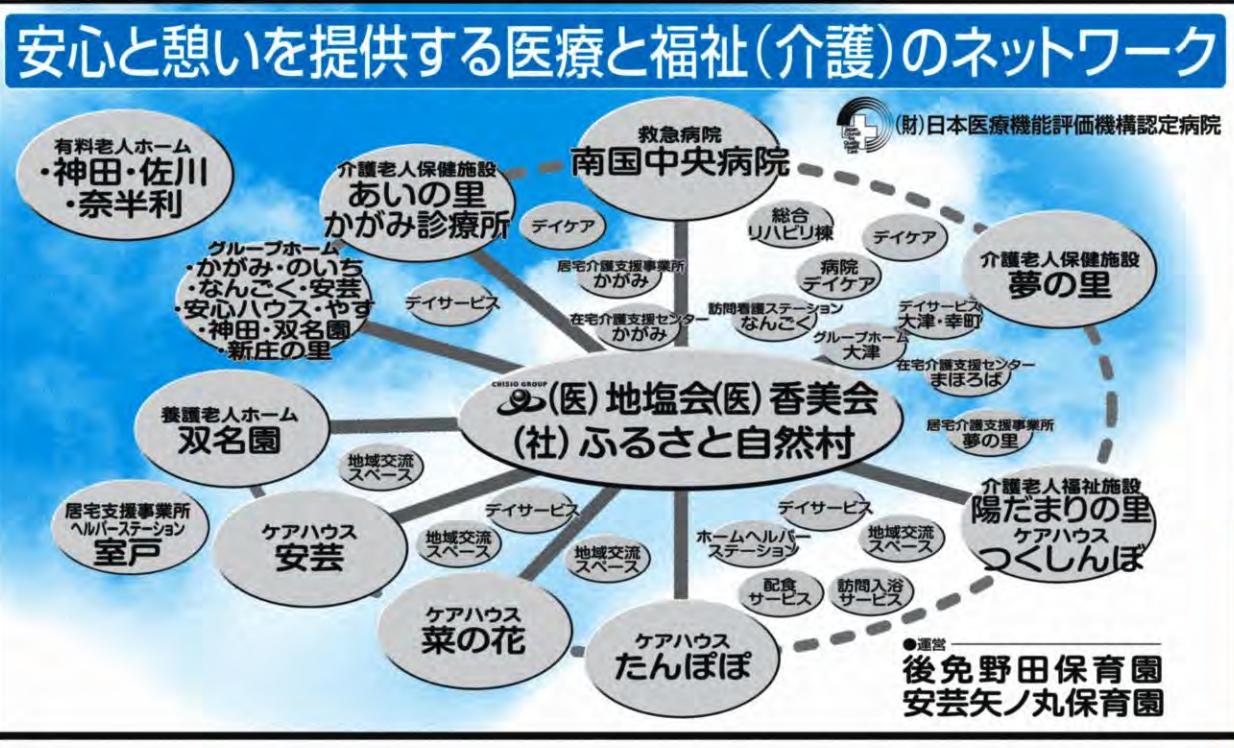
— これからの医療法人「地塩会」や社会福祉法人「ふるさと自然村」などの在り方として、どういう点に力を入れていきますか。
宮本/地域リハビリテーションというところが今後のテーマです。急性期病院と回復期リハビリテーション病院、在宅生活を支援する医療機関、施設がしっかりと連携して、障害が残ったとしても住みながら自宅や地域で家族、地域の人々とともに安心して暮らせるような体制を整えることが必要です。介護度が比較的に軽い方でも、一人で暮らせるようなケアハウス、有料老人ホームなどの居住施設を拡充することも必須です。閉じこもりなどで体の機能が衰えないように、通所リハビリの充実や家族の介護疲れを少なくするために短期入所機能を増やすことも考えなければなりません。そのため、地域に、地域で見守り支えあう支援態勢作りが大切です。今後は、我々の地塩会グループだけではなく、保健、医療、福祉関係者と協力、連携することはもちろん、スーパーや銀行、商店街、学校、PTA、人生経験豊富な高齢者、引退した元氣な団塊世代の人たちなど、生活に関係するあらゆる人々がそれぞれの立場でできることを一緒に考えてやっつけけるように頑張っていきたいと思っています。

回復期リハビリテーション病棟有

内科・胃腸内科・呼吸器内科・循環器内科
整形外科・脳神経外科・外科・リハビリテーション科
一般病棟/45床 回復期リハビリテーション病棟/54床
●診療時間 月・水・木・金…午前8時30分～午後5時30分
火・土・日……午前中のみ 日曜診療有

— これからの医療法人「地塩会」や社会福祉法人「ふるさと自然村」などの在り方として、どういう点に力を入れていきますか。
宮本/地域リハビリテーションというところが今後のテーマです。急性期病院と回復期リハビリテーション病院、在宅生活を支援する医療機関、施設がしっかりと連携して、障害が残ったとしても住みながら自宅や地域で家族、地域の人々とともに安心して暮らせるような体制を整えることが必要です。介護度が比較的に軽い方でも、一人で暮らせるようなケアハウス、有料老人ホームなどの居住施設を拡充することも必須です。閉じこもりなどで体の機能が衰えないように、通所リハビリの充実や家族の介護疲れを少なくするために短期入所機能を増やすことも考えなければなりません。そのため、地域に、地域で見守り支えあう支援態勢作りが大切です。今後は、我々の地塩会グループだけではなく、保健、医療、福祉関係者と協力、連携することはもちろん、スーパーや銀行、商店街、学校、PTA、人生経験豊富な高齢者、引退した元氣な団塊世代の人たちなど、生活に関係するあらゆる人々がそれぞれの立場でできることを一緒に考えてやっつけけるように頑張っていきたいと思っています。

— これからの医療法人「地塩会」や社会福祉法人「ふるさと自然村」などの在り方として、どういう点に力を入れていきますか。
宮本/地域リハビリテーションというところが今後のテーマです。急性期病院と回復期リハビリテーション病院、在宅生活を支援する医療機関、施設がしっかりと連携して、障害が残ったとしても住みながら自宅や地域で家族、地域の人々とともに安心して暮らせるような体制を整えることが必要です。介護度が比較的に軽い方でも、一人で暮らせるようなケアハウス、有料老人ホームなどの居住施設を拡充することも必須です。閉じこもりなどで体の機能が衰えないように、通所リハビリの充実や家族の介護疲れを少なくするために短期入所機能を増やすことも考えなければなりません。そのため、地域に、地域で見守り支えあう支援態勢作りが大切です。今後は、我々の地塩会グループだけではなく、保健、医療、福祉関係者と協力、連携することはもちろん、スーパーや銀行、商店街、学校、PTA、人生経験豊富な高齢者、引退した元氣な団塊世代の人たちなど、生活に関係するあらゆる人々がそれぞれの立場でできることを一緒に考えてやっつけけるように頑張っていきたいと思っています。



365日リハビリを行っています (財)日本医療機能評価機構認定病院

社日本リハビリテーション医学会認定
リハビリテーション科・整形外科 常勤医/宮本寛(リハビリテーション科専門医)

月	火	水	木	金	土	日
○	○	○	○	○	○	○

社)日本脳神経外科学会認定
脳神経外科 常勤医/吉村好和(脳神経外科専門医)

月	火	水	木	金	土	日
○	○	○	○	○	○	○

●診療時間 月・水・木・金…午前8時30分～午後5時30分
火・土・日……午前中のみ 日曜診療有

CHISIO GROUP 医療法人 地塩会 救急病院

南国中央病院

南国市後免町3-1-27 TEL088-864-0001